

2025年1月24日

産業別四半期見通し調査結果 (2025年1～3月期見通し)

■長野県産業天気図

◇2024年10～12月期の現況

- 全12業種中、「薄日(順調)」が1業種、「曇り(普通)」が8業種、「小雨(低調)」が3業種となった。

◇2025年1～3月期の見通し

- 見通しは、「晴れ(好調)」が1業種、「曇り(普通)」が8業種、「小雨(低調)」が3業種となった。方向感では、「やや上昇」が2業種、「横ばい」が9業種、「やや下降」が1業種となっている。

天気図記号	2024年 7～9月期現況	2024年 10～12月期現況	2025年 1～3月期見通し
 晴れ(好調)	0 業種	0 業種	1 業種
 薄日(順調)	2 業種	1 業種	0 業種
 曇り(普通)	7 業種	8 業種	8 業種
 小雨(低調)	3 業種	3 業種	3 業種
 雨(不調)	0 業種	0 業種	0 業種

■1～3月期見通しのポイント

- 製造業では天気マークに変化はなく、非製造業では「観光」が「薄日(順調)」から「晴れ(好調)」となる見通し。


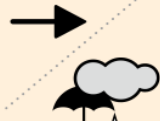
照会先
一般財団法人 長野経済研究所
調査部(担当: 桑井、伊東)
TEL: 026-224-0501


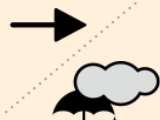



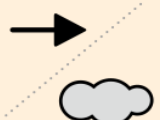
<産業別天気図一覧(12業種)>


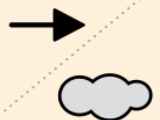
- 調査内容: 業界の「現況」、「見通し」は、県内の企業経営者が業界の景気をどうみているかについてアンケート調査とヒアリング調査をした結果を基に、当研究所が判断した。
- 調査期間: 2024年12月中旬～2025年1月上旬
- 調査回答企業: 県内主要企業12業種の113社


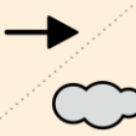
業種	前期 (24年7～9月期)	今期 (24年10～12月期)	来期 (25年1～3月期)
生産用機械			
電子部品・デバイス			
自動車部品			
飲料製造			
食料品製造			
機械器具卸			
大型小売			
自動車販売			
公共工事			
民間工事			
貨物			
観光			


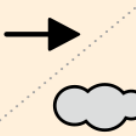
生産用機械	設備投資への慎重姿勢が続き、受注は低調
<p>● 現況</p> 	<p>生産用機械の受注のうち自動車向けは、バッテリー式電気自動車(BEV)など完成車需要の伸び悩みから設備投資への慎重姿勢が続き低水準だった。IT関連では、PC・スマートフォン向けや産業用向けなどの半導体需要の低迷が続き、受注は低調だった。今後も、自動車関連、IT関連を中心に受注は低調な見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 工作機械の受注は、国内では自動車関連の部品メーカーを中心に投資の抑制が続くとみられ低水準が続く見込み。海外は、米国向けは堅調とみられるものの、中国向けは景気減速の影響から低調なほか、欧州向けも自動車関連が減少する見込み。 ● 半導体製造装置の受注は、産業用やIT関連の半導体需要が回復せず低調な見通し。


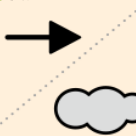
電子部品・デバイス	産業用やIT関連を中心に受注は低調な見込み
<p>● 現況</p> 	<p>電子部品の受注は総じて低調で、生産・出荷は低水準にとどまった。半導体製造装置向けなどの産業用やPC・スマートフォンなどのIT関連向けは、中国景気の低迷を背景とした需要の減少から低調だった。また、車載用についても、欧州などでバッテリー式電気自動車(BEV)需要が鈍化したことなどから弱含んだ。今後も、産業用やIT関連を中心に引き続き受注は低調に推移するとみられ、在庫の高止まりが続く見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 産業用やIT関連、エアコンや冷蔵庫などの家電用は、中国や欧州など海外需要の弱さが続くとともに国内向けも力強さに欠け、低調な見通し。 ● 車載用は、中国景気の低迷や欧州でのBEV需要の鈍化が続き、弱い動きが続く見込み。


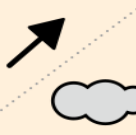
自動車部品	中国向けは低調ながら、国内・北米向けを中心に受注は堅調
<p>● 現況</p> 	<p>新車需要が底堅い中、認証不正問題に伴う一部国内完成車メーカーの生産・出荷停止の影響が緩和されたことから、自動車部品の受注は総じて堅調だった。今後も新車需要は底堅く、国内・北米向けを中心に受注は堅調に推移する見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内・北米向けは、スポーツ用多目的車(SUV)やハイブリッド車(HV)を中心に新車需要が底堅く、受注は堅調に推移する見通し。 ● 中国向けは、現地メーカーとの競争激化を背景に日系完成車メーカーの新車販売が低迷しており、今後も受注は低調な見通し。また、東南アジア向けは、中国の電気自動車(EV)メーカーの安値攻勢に日系完成車メーカーが苦戦を強いられており、低調な見込み。


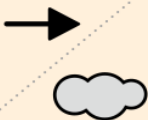
飲料製造	観光やビジネスで人の動きが活発なため、飲料需要は底堅い見通し
<p>● 現況</p> 	<p>観光やビジネスでの活発な人の動きや年末年始の会食機会の増加により、飲料需要は堅調に推移した。今後も観光を中心に人の移動の増加が続き、需要は底堅い見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 果汁飲料などの清涼飲料は、国産リンゴを中心とする果樹が不作のため生産量の低下が見込まれるものの、堅調な需要や製品価格の引き上げにより、売り上げは前年並みとなる見通し。 ● 清酒・ワインなどのアルコール飲料は、観光やビジネスでの人の動きが活発なため底堅い需要が予想されるが、消費者の節約志向が強いことから、原材料や包装資材などの価格上昇分の転嫁は難しく、収益環境は厳しい状況が続く見通し。


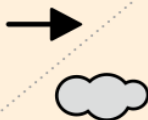
食料品製造	家庭用、業務用ともに需要は底堅い見通し
<p>● 現況</p> 	<p>家庭用需要は、時短ニーズに応えた調理が簡便な製品を中心に底堅かった。また、観光やビジネスなどで人の動きが活発化し、外食を中心とする業務用は堅調だった。今後は、物価上昇を映じた節約志向の高まりから、家庭で調理する内食需要は底堅く推移することが見込まれるほか、観光客など人出の増加により業務用も堅調に推移するとみられる。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 味噌などの調味料は、調理が簡便で時短が図れる製品や、減塩や無添加など健康志向に配慮した製品を中心に底堅い需要を見込む。 ● 油揚げや乾燥食品などは、外食向けを中心に業務用の需要が堅調に推移する見込み。 ● ソース・加工肉などは、原材料価格が低下し、収益環境は改善する見通し。


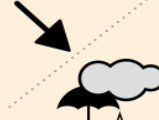
機械器具卸	機械需要は引き続き低調も、建設・電設資材需要は順調を見込む
<p>● 現況</p> 	<p>機械需要は、自動車関連やIT関連で設備投資への慎重姿勢が続き、総じて低調だった。一方、建設・電設資材の需要は商業施設の新設工事など民間工事を中心に安定した工事量があり順調だった。今後も設備投資への慎重姿勢が続くため機械需要は低調とみられるが、建設・電設資材の需要は順調な見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 工作機械などの機械需要や制御機器などのFA機器の需要は、自動車関連を中心に投資への慎重姿勢が続き低調とみられる。切削用工具類や金属板などの消耗品受注は、製造業の生産活動が底堅いとみられ、堅調な見込み。 ● 建設・電設資材の取扱量は、民間工事中心に安定した工事量が見込まれ、順調な見通し。



大型小売	買い上げ点数は減少するが、販売価格の引き上げ等から売り上げは堅調
<p>● 現況</p> 	<p>年末商戦やお正月の初売りなど“ハレの日”商戦は好調で、売り上げも販売価格の引き上げ等から増加傾向にある。ただし、コメなど食料品の価格高騰を受けて、消費者の買い上げ点数は減少しており、根強い節約志向がうかがわれる。今後も、消費者の底堅い内食需要が見込まれる中、販売価格の引き上げ等から売り上げは堅調な見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 百貨店は、メリハリ消費の傾向から食料品は弱含む一方、衣料品は季節衣料が持ち直したほか、靴・バックなどの身の回り品も堅調に推移し、全体としては底堅い見込み。 ● スーパーは、コメや生鮮食品の価格高騰から消費者の買い上げ点数は減少しているものの、販売価格が上昇する中で食料品や日用品などを中心に売り上げは増加する見込み。

自動車販売	新車販売を中心に持ち直す見込み
<p>● 現況</p> 	<p>新車販売は、一部国内完成車メーカーにおける新安全・環境規制への対応遅延の影響で生産・出荷が停止したことなどから弱含んだ。一方、中古車販売や輸入車販売は、底堅い需要の中で持ち直した。今後は、新車販売が出荷停止の影響緩和から持ち直すほか、中古車販売および輸入車販売も底堅い動きが続くとみられ、総じて堅調な見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新車販売は、メーカーの生産・出荷体制の安定化により持ち直す見通し。 ● 中古車販売は、底堅い需要の中で、新車販売の持ち直しに伴う下取り車の増加により在庫が増加するとみられ、緩やかに持ち直す見込み。 ● 輸入車販売は、人気車種のモデルチェンジ効果などから底堅く推移する見込み。

公共工事	防災・減災を目的とする土木工事などで堅調な工事量を見込む
<p>● 現況</p> 	<p>公共施設の改修工事や国土強靱化基本計画に伴う土木工事などにより、底堅い工事量となった。今後も、防災・減災を目的とする河川等の土木工事や、三遠南信自動車道の整備に関連する道路工事などが見込まれ、堅調な工事量となる見通し。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 国では、河川や山間部の防災・減災工事のほか、三遠南信自動車道関連の道路工事なども見込まれ、底堅い工事量が続く見通し。
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 県では、治水・治山工事や道路の維持修繕工事の他、文化施設等の改修工事などにより、引き続き安定した工事量となる見込み。 ● 市町村では、学校など公共施設の改修工事を中心に、底堅い工事量が見込まれる。

民間工事	企業の建設投資を中心に底堅い工事量となる見込み
<p>● 現況</p> 	<p>民間企業の建設投資は、製造業の工場新增設工事を中心に堅調な工事量となった。新築住宅は、分譲マンション等の需要は底堅い一方、建築コスト上昇の影響で注文住宅の受注は減少し、総じて着工戸数は低調だった。引き続き材料費や労務費は上昇傾向にあるものの、企業の建設投資を中心に底堅い工事量が見込まれる。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 民間企業の建設投資は、製造業の工場新增設工事や、商業施設の新設に伴う工事を中心に、引き続き安定した工事量となる見通し。 ● 住宅関連は、分譲住宅やマンションは市街地、リゾート地で堅調な需要がある一方、注文住宅は建築コスト上昇の影響による受注減少が続き、着工戸数は低調な見込み。

貨物	低調な荷動きに加えてガソリン価格の上昇が利益を下押しする見通し
<p>● 現況</p> 	<p>工業製品は中国向けなど海外需要の鈍化を背景に低調な荷動きとなり、食品・雑貨類も商品値上げに伴う消費者の買い控えの影響から貨物量は伸び悩んだ。また、12月に政府の補助金が縮小されてガソリン価格が値上がりし、利益を圧迫した。今後も、貨物量は総じて低調な動きが続く見通し。業界では運賃引き上げにより売り上げの増加はみられるものの、1月にも補助金のさらなる縮小が実施され、ガソリン価格上昇が利益を下押しする見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 工業製品は、生産用機械や電子部品などを中心に中国など海外需要の鈍化から生産・出荷の弱さが継続するとみられ、関連部材や輸出品などの荷動きも低調な見通し。 ● 食品や雑貨類は、商品値上げの影響などから引き続き弱い荷動きとなる見込み。

観光	旅客・宿泊とも引き続き順調な利用を見込む
<p>● 現況</p> 	<p>秋の行楽シーズンは、国内客の高速バス・貸し切りバス利用が順調だったほか、インバウンドによる旅客・宿泊施設利用も好調だった。しかし、旅客では一部で人手不足による観光需要の取りこぼしが見られたほか、燃料費を中心としたコスト上昇が利益を圧迫した。今後は、スノーシーズンがピークを迎える中、旅客・宿泊施設とも旺盛なインバウンド需要を中心に利用者の増加を見込む。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 旅客は、スキー場を利用するツアーや学校関連などの団体利用を中心とした国内需要のほか、インバウンド需要が好調となる見通し。 ● 宿泊施設は、スキー場周辺地域でのインバウンド需要を中心に好調な見通し